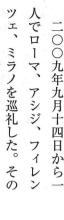
時の巡礼記

37



## 持ちすぎている





書き留めたことばを思い出す。 カルチェリで雨に打たれながら

> 濡れても かまわずに

> > 雨の中で

彼の調を 雨にあわせて

> うたを 自分の 彼は

うたっただろう

泪が 雨と

頬を伝わる いっしょになって

おおきく

に横たわる。

眠りにつけない。

かつて、二十五年前、アシジの

破ななが

聴いただろう 窟から出て

窓の厚いカーテンを開け、白い 薄いカーテン一枚にしてベッド

きっと

彼は

し、雷鳴がとどろく。強い雨。

四時頃から稲光が窓を照ら

なかなか寝つけない。

彼も聞いた

このおなじ かつて

雨音を

九月十五日未明

真 神父 がた

フランチェスコのことが、マ

ちがいない 捧げたに あの方に

ザーテレサのことが、そしてマ

リアのことが巡る。

口をあけて

「持ちすぎている」

り払い、貧しい人に施しなさい た。「あなたの持ち物をすべて売 イエスは金持ちの青年に言っ

に、そして「わたし」のほかに 何がいるだろう。 に、持ちすぎている。神のほか 「わたし」があるだけでいいの わたしは持ちすぎている。

るからきついのだ。 ていたこの頃。持ちすぎている ことに気づいた。持ちすぎてい 五年。きつくてたまらなくなっ ローマ留学から帰国して二十

していた。無視していても福音 うす気づいていた。それを無視 とができない。それには、うす このままでは福音を伝えるこ

できない。 これ以上、福音を伝えることは が迫ってくる。捨てなければ なぜ、フランチェスコに魅か

リアに魅かれてきたのだろう れ、マザーテレサに魅かれ、

か。今までずっと。

ればならない。 時が来た。わたしも捨てなけ

「持ちすぎている」

込ませねば。しっかりと。忘れ することのないように、今、し おかなければ…。 ように。このことを書き留めて ないように。後でごまかさない っかりと身に、そして心に染み ならないように、後で自己否定 このことをしっかりと、夢と

鳴が止んだ。稲光も。雨も。 起き上がり、書き始めた。 雷

てばいい。 神が必要とされるものだけを持 るはず。神がいるのであれば、 神を信じているように生きなけ ればならない。そのように生き 神を信じている。だとすれば、

> ばいい。 それは祈り。祈りの時と場所が 示してくださったことを伝えれ あればそれでいい。そこで神が のつながり。それを助けるもの。 わたしに必要なものは、神と

ぎている。 わたしは余計なものを持ちす

ばいい。それは与えられる。 神の想いをとらえる心があれ

ば、そのように聞こえる。 そのように生きる。神を信じて える。神を信じているのであれ いるのであれば、そのように見 神を信じているのであれば

(ローマにて

http://www 【教会ホームページ】

yukuhasi.catholic.ne.jp/ ブログ

http://micheleyam.exblog.jp

善き隣人として奉仕する

## 葬儀の御用は弊社に

東京都世田谷区尾山台3-9-6

株 沼崎商 マリア式典部 沼崎